

# 音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立ての研究

—〔共通事項〕を要とした授業の展開—

音楽科研究会議

研究員 寺瀬 想（川崎市立高津小学校）

松本 彩子（川崎市立菅生小学校）

秋山 高宏（川崎市立王禅寺中央中学校）

遠矢 亜夕加（川崎市立犬蔵中学校）

指導主事 伊藤 由佳子

## I 主題設定の理由

新学習指導要領において、音楽科で育成を目指す資質・能力は、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と規定された。これは、音楽学習における深い学びが実現するためには、「音楽的な見方・考え方」を働かせた学習活動が重要であり、また、「音楽的な見方・考え方」を働かせた音楽科の学習を積み重ねることによって、生涯にわたって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わっていく資質・能力は育成されるということを示したものであることがわかる。

音楽科の学習は対象となる音楽を知覚・感受することから始まる。児童生徒が、音楽の質的な側面を「音楽に対する感性を働かせ」て捉えることは、音楽科の学習において最も本質的な部分であり、音楽科の学習が成立する重要な要件である。そのことを基に、児童生徒が思考を巡らせて、豊かな音楽表現となるように創意工夫をしたり、音楽を深く聴き味わったりすることで音楽に対する感性を豊かにしていくことは、音楽科の学習で大切なことである。

本研究会議では、「音楽的な見方・考え方」に着目し、児童生徒に、思いや意図をもたせて深い学びに向けて学習を進めていくことをねらいとする。特に音楽科の学習の支えとなる〔共通事項〕を知覚・感受することが「音楽的な見方・考え方」を働かせることに資すると考え、その適切な設定の仕方や、学習形態の工夫をするなどの効果的な教師の指導の手立てを具体的な授業実践を通して検討することを目的に研究を行うこととした。

## II 研究の内容

小学校・中学校のそれぞれにおいて、表現及び鑑賞の学習を通して、児童生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思いや意図をもって深い学びに向けて学習を進めるための指導の手立てについて研究する。

### 1 研究の方法

研究を始めるに当たり、児童生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせるためには、教師のどのような手立てが必要であるのか、〔共通事項〕を要とするとは、どのようなことを指すのか、このことを研究会議で確認した上で、研究に取り組むこととした。次に、小学校において一般的に実施されている〔共通事項〕を要とした授業の実践を検証し、その有効性と留意点について確認し、研究の視点を定め、方針を立てた。これらを通して、小学校、中学校のそれぞれにおいて、〔共通事項〕を要とした指導の在り方を提言できるよう、授業実践を行うこととした。

#### （1）「音楽的な見方・考え方」と〔共通事項〕との関わりの確認

「音楽的な見方・考え方」を働かせるとは、児童生徒が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などとの関連付けて考えることである。この「音楽的な見方・考え方」は、〔共通事項〕と深い関わりがあり、教師が適切な場面設定をすることが求められる。本研究では、〔共通事項〕

の音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、それぞれの音楽の特質や雰囲気を探る学習が、「音楽をこう表現したい」という思いを深めることや、「鑑賞曲のよさを味わう」ことに有効であるものとして、実践を通して考えていくこととした。

## (2) 小学校の実践を踏まえて、視点の確認

### ①〔共通事項〕を要とした授業の展開の確認

小学校4年生で一般的に行われている、「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」という題材で、表現と鑑賞を関連付けた授業を検証した。この題材の鑑賞領域では、「白鳥」と「美しきロスマリン」を教材に、旋律の特徴や曲想を感じ取りながら音楽を聴き、楽曲の特徴や演奏のよさに気付く学習を展開する。検証授業の「白鳥」の鑑賞では、「なめらかな旋律は、白鳥がバレエを踊っているようだ」と、〔共通事項〕の音楽の要素を知覚・感受することができる児童もいる中、知覚・感受したことを分けて考えることが難しい児童が多く存在した。この授業からは、音楽の要素を知覚はできるものの、それによる雰囲気などを感じ取ることまで至らない児童や、何を答えてよいのかわからない児童が多く存在することを確認した。

### ②音楽的な見方・考え方を働かせるために大切な視点の確認

音楽科では、表現及び鑑賞の領域において、〔共通事項〕に示されている音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることが学習の基盤となる。検証授業からも、〔共通事項〕は、音楽の学習において必要となる資質・能力であることが再確認できた。これが曖昧な授業では、「何を学んだかわからない」等の状況に陥ることになる。また一方で〔共通事項〕の音楽の要素を教え込んでしまったり、知覚の段階で指導が留まってしまったりすることもある。「音楽的な見方・考え方」を働かせる音楽の学習を進めるためには、教師が育成したい資質・能力を明確にし、ポイントとなる〔共通事項〕の見極めを正確に行うこと、その先の児童生徒の目指す姿を明確にもつことが重要であることを確認した。

これらのことから〔共通事項〕を明確にした上で、次の3点を授業展開に加えて実践することとした。

- 〔共通事項〕の設定・・・題材で身に付けさせたい力に沿って、それぞれの教材の音楽的特質を指導者が的確に把握し、要となる〔共通事項〕を明確に設定する。
- ア 知覚と感受の場の設定・・・音や音楽を知覚・感受する場面を、適切に設定する。
- イ 思考を促すワークシートや授業中の発問の工夫・・・音楽を形づくっている要素と要素同士の関わり合いを感じ取るために、知覚・感受したことを思考の流れに沿って記述したり、児童生徒の姿をよく見取り適切な投げかけをしたりする。
- ウ 対話的な学びの設定・・・音楽的な学びを支えにしながら、他者との対話を通して自らの考えを深めたり、広げたりするために、子ども同士で関わり合う場を設定する。

## 2 授業の実際

### (1) 実践授業1「詩と音楽を味わおう」(A小学校・6年生)

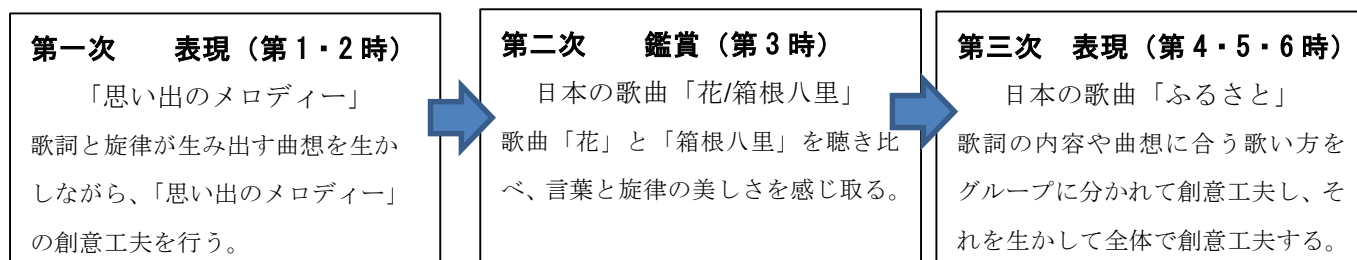
#### ①題材の目標

- ・日本の楽曲を通して、歌詞や旋律それらが合わさって生まれる美しさを感じ取る感性を高める。
- ・歌詞や曲想から、自分の思いや意図をもち、表現する能力を育てる。

#### ②ポイントとなる共通事項

ア 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、フレーズ

### ③指導計画



### ④学習活動の実際

第一次は、語感と旋律との関わりを捉え表現を工夫するために、〔共通事項〕を「旋律」「強弱」「フレーズ」に絞り、ワークシートは、児童が思考を巡らせるために楽譜を掲載し、思いや意図を書く欄を載せ、旋律の動きや強弱にも着目しながら書き込んでいける形にした。さらに教師は、児童の記述内容を把握し、思考を促す問い返しを行った。

児童A：クレッシェンドがあるからだんだん強く歌う。

教師：強弱に気付いていますね。旋律の動きにも注目してみましょう。

児童A：音が上がっていて、歌詞も2回繰り返し替えされているから「忘れないよ」という気持ちを相手に強く伝えたいのと思う。

教師：では、この部分はどのように歌いたいですか。

児童A：相手に強く伝えたいから、クレッシェンドをつけてだんだん強く盛り上げるように歌いたい。

このような手立ての結果、この児童は、教師の関わりによって「音楽的な見方・考え方」を働かせて創意工夫する姿が見られた。第三次では、教師が歌詞の内容に合う歌い方の工夫を意識し過ぎたあまり「歌詞」のみに固執してしまった児童がいたことが課題であった。この反省を生かし、他クラスで「歌詞」と「旋律」の両方に着目するよう発問の工夫や問い返しを行う授業改善を行い、その結果、根拠のあるより豊かな表現の記述が見られた。この実践授業からは、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせるためには、教師がポイントとなる〔共通事項〕を精選し、それらを意識して学習を展開することが不可欠であるということ、また教師は、常に児童の実態を把握し、それに伴った手立てや改善を打つ必要があることを再確認した。

### (2) 実践授業2「いろいろな音のひびきを味わおう」(B小学校・6年生)

#### ①題材の目標

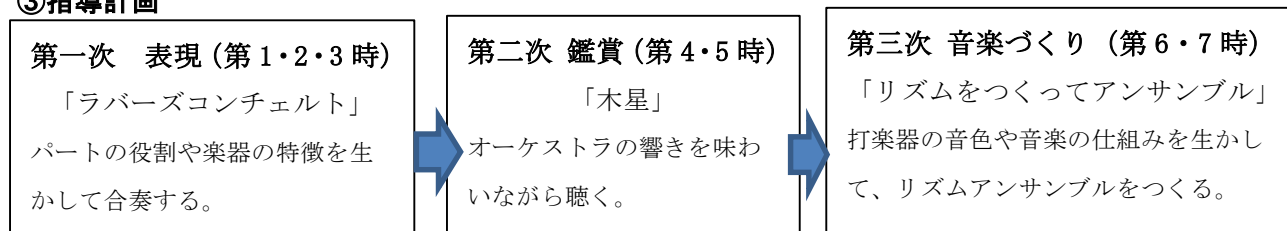
- ・パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組合せから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりする感性を高める。
- ・楽器の音色やリズム、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする能力を育てる。

#### ②ポイントとなる共通事項

ア 音色 リズム 強弱 旋律 音の重なり

イ 反復 呼びかけとこたえ 変化 音楽の縦と横との関係

### ③指導計画



#### ④学習活動の実際

第二次では、旋律に着目させて聴くために、聴かせる部分を絞って、同じ旋律がくり返される二つの部分のみ取り出した。その結果、途中で曲想が変わったことに多くの児童が気付くことができた。さらに、「音楽の何が変わったのか」と問い返しをしたことで、強弱や楽器の組合せの変化に気付くことができた姿が多く見られた。またその後他の部分を聴いた際、「旋律が何度もくり返されるときに、楽器の音色が変わるので、曲の感じがどんどん変わることがおもしろい」と旋律の反復や強弱だけでなく、楽器の組合せの変化にも気付く児童がいた。第三次の音楽づくりでは、いくつかの楽器の組合せを聴かせ、今までの学習を想起して知覚・感受する場を設定した。その結果、知覚・感受したことを生かして、似ている音色の組合せや全く異なる音色の組合せなど色々試しながら音楽づくりを進める姿が見られた。このように、題材全体を通して、楽器の組合せによって全体の響きの変化を感じ取ることをねらいとした指導を行った結果、「低い音が重なって力強くなった。」「くり返す旋律に高い音で全く別の旋律が重なることがおもしろい。」などという発言が見られた。これらの発言から、児童が「音楽的な見方・考え方」を働かせて音楽を捉えた結果、主旋律を中心に聴いていた児童の「音楽を感じ取る幅」が広がったことがわかった。

#### (3) 実践授業3「多声的な音楽に親しもう」(D中学校・2年生)

##### ①題材の目標

- ・パイプオルガンの特徴を理解し、音色から生まれる雰囲気を感じ取る感性を高める。
- ・音楽の形式を知り、多声的な音楽の面白さを味わって鑑賞する能力を育てる。

##### ②ポイントとなる共通事項

音色 旋律 テクスチャ

##### ③指導計画

###### 鑑賞(第1時)「フーガ ト短調」

パイプオルガンの音色に着目しながら曲を聴いたり、楽器の構造、音の鳴る仕組みを学習したりする。

###### 鑑賞(第2時)「フーガ ト短調」

「旋律」に着目しながら曲を聴き、多声的な音楽について学習する。題材を通して学習したことを踏まえ、自分なりの考えをまとめる。

#### ④学習活動の実際

第1時の楽器の構造の学習では、実際に楽器の音を聴き、知覚・感受する場の設定を行った。「フルートやリコーダーの音色に似ていて、広がる感じがする」と発言した生徒に、「どうしてそう感じるの?」と教師が問い返すと、「空気を使って音が鳴っているからだ」という楽器の構造と結び付ける発言が見られた。これは、自分たちが知覚・感受したことを通して、構造について知識として学習した姿であったと考えられる。また多声的な音楽の特徴とその雰囲気を感じ取るために、違う声部で次々と現れる「旋律」の様子を知覚・感受した結果、「次から次へと違うパートで追いかけていくようだ」などという「テクスチャ」にも気付いた発言をする生徒が見られた。当初はこの音楽の特徴を様々な視点で捉えていた生徒が、[共通事項]である「音色」を要にすることで、「パイプに下から風を通し、圧力をかけた空気がパイプを通って音を鳴らす」という構造だから「響きのある温かい音色で広がっていくようだ」と感じることができたといえるだろう。この授業を通して、[共通事項]を要とした学習により、子どもたちが何を聴き深めるのか、という視点を明確にすることができるということを再確認することができた。

#### (4) 実践授業4 「ドイツ歌曲「魔王」の魅力味わおう」(C中学校・1年生)

##### ①題材の目標

- ・楽曲の特徴をとらえ、そのよさや美しさを味わいながら聴く感性を高める。
- ・旋律、強弱を知覚し、曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴く能力を育てる。

##### ②ポイントとなる共通事項

旋律 強弱

##### ③指導計画

###### 鑑賞(第1時)「魔王」

「魔王」を役ごとに分解して聴き、音楽的な特徴や雰囲気を感じ取ったり、感じ取ったりする。

###### 鑑賞(第2時)「魔王」

3人組で自分の知覚感受したことを伝え合ったり、全体で共有したりして聴き深める。最後には、「魔王」の楽曲全体のよさをシューベルトになつたつもりで紹介文の形で記入する。

##### ④学習活動の実際

登場人物の曲想の変化を捉えるため、[共通事項]の「旋律」と「強弱」を柱に、曲を分解し、四つの役それぞれを聴かせた。ワークシートは、題材を通して使用し、生徒の思考の流れに沿ったものになるよう工夫した。登場人物ごとに、気付いたこと(知覚)と感じたこと(感受)という項目を立て、知覚と感受を関連付けて音楽を聴き深めることへとつなげた。教師は、題材を通して、生徒の反応を見て[共通事項]に気付くように促す問い返しを行った。その結果、生徒は知覚したことと感受したことの関わりに気付くなど、発展して学習をしている姿が見られ、音楽を聴き深める様子が確認できた。第2時では、3人組での対話的な活動を設定し、自分の知覚・感受したことを伝え合うことで、自分だけでは気付かなかった音楽の特徴を仲間の意見を参考にしながら、気付いていく姿が見られた。友達との対話で、「魔王の雰囲気の違いは、伴奏の変化だ」という事に気付いた生徒が「音でもう一度確認したい」と発言したため、この部分をCDで確認したり、教師のピアノの演奏を実物投影機で映し、実際に伴奏の変化を演奏して見せたりして、全体で確認を行った。

【シューベルトになりきって「魔王」のよさを紹介しましょう。】

私の作られたこの魔王は、場面により、強弱や曲調を変えている。それを元として、登場人物の気持ちを感じとれるようにした。例えば魔王が語る場面では、最初は短調の日々なのに長調になり、そしてその心情によってどんどん高さを上げていった。そしてその高さを思ったとらえ、曲自体のテンポも変わっていき、高さを上げるのびやかだ。また、曲調と合わせてリズムで魔王の体を引っ張っているように表現している。最終的には長調で優しくなった魔王が大きく音を出すことにより、本性を表す場面を表現した。ぜひ聴いてみてくれ。9343333!

図1 「魔王のよさを紹介しよう」記入例

図1で示した生徒は、[共通事項]の「旋律」と「強弱」を要として学習を進め、多くの要素が関連して楽曲の雰囲気を醸し出していることに気付いている。この授業から、[共通事項]を要とするということは、音楽を形づくっている要素を教えるのではなく、それらを柱にして、学習を進めていくのだということが確認できた。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 実践授業より

##### (1)「知覚と感受の場の設定」の視点を取り入れた授業から

実践授業3では、知覚・感受の学習活動の中で、生徒の意見を再び音で確認するという活動を丁寧

に行った。その結果、楽器の構造について、教師が知識として教え込むのではなく、生徒が知覚・感受したことを通して、知識として学習した姿を確認することができた。このように実践授業において、〔共通事項〕を要として音楽を形づくっている要素の知覚・感受が丁寧に行われる学習活動を設定することで、児童生徒は、〔共通事項〕を柱にして、音楽的な見方・考え方を働かせて学習を進めていくのだということが確認できた。

### （２）「思考を促すワークシートや授業中の発問の工夫」の視点を取り入れた授業から

実践授業２では、児童の発言に対し、「なぜそう感じたのか？」と教師が問い返しをすることで、児童はさらに音や音楽を捉え直そうとする姿が見られ、「こう感じたのは音楽のこんな特徴があるからだ」というように、思考が深まっていく姿が見られた。また実践授業１では、思考の流れに沿ったワークシートの工夫を行ったことから、多くの児童が旋律の動きや強弱の変化を明確に捉え、「音楽の特徴がこうだから、どの表現の仕方がよいか」という思いや意図につなげることができた。

### （３）「対話的な学びの設定」の視点を取り入れた授業から

実践授業４では、３人組による対話的な学びの中で、自分の知覚・感受したことを伝え合った。ここでは、仲間の意見を参考にしながら、自分だけでは気付かなかった音楽の特徴に気付く姿が見られた。また対話的な学びを行っている時の生徒の姿は、自分の知覚・感受したことを明確に友達に伝えるために、〔共通事項〕を要として音楽的な言葉を用いて伝える様子が見て取れた。

## ２ まとめ

実践授業の結果から、研究の最初に確認した視点は、児童生徒が学習活動の中で「音楽的な見方・考え方」を働かせるという点で成果があったといえる。実践授業４において、教師は〔共通事項〕の強弱と旋律を柱に学習を展開させた。授業の最初に音楽の特徴を自分の言葉で表すことができなかつた生徒が、学習を進めていく中で音楽の中で旋律や強弱がどのようになっているのか「音で確認をしたい」という発言をし、最後の紹介文では、多くの要素が関連して楽曲の雰囲気醸し出していることに気付いた記述をしている。このように、実践授業の実際から、教師が児童生徒に育成したい資質・能力を明確にし、それに向けて適切な〔共通事項〕を設定することが重要であり、その〔共通事項〕を要として音楽を形づくっている要素の知覚・感受が丁寧に行われる学習活動を通して、児童生徒は音楽的な見方・考え方が働いていく姿が見られたと考える。特にワークシートや発問の工夫の視点においては、教師が常に児童生徒の実態を把握し、問い返しなどの手立てや改善を行うことが、児童生徒の「音楽的な見方・考え方」を働かせ、学習の深まりを生む効果があった。

本研究の成果としてあげられる、児童生徒の音楽への向き合い方の高まった姿を拠り所として、今後も「音楽的な見方・考え方」を働かせるための効果的な指導の工夫と充実に努めていきたい。また今後は、子どもたちが「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習し、それを「自己のイメージや感情、生活や文化など」と結び付けることができるための効果的な手立てが示されることが望まれる。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をいただきました先生方、研究をご支援いただきました所属校の校長先生をはじめとする教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼を申し上げます。

#### 【指導助言者】

川崎市立小学校音楽教育研究会長（川崎市立大戸小学校長）

松野 剛一先生

川崎市立中学校教育研究会音楽科部会長（川崎市立今井中学校長）

川崎 靖弘先生